資　　料

元気な子どもを育む学校経営についての一考察

山田修司

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（平成29年１月５日受理）

A Study of School Management to foster energetic children

Shuuji YAMADA

(*Department of Children's Studies*)

(Accepted January 5, 2017)

西九州大学子ども学部紀要　第８号　129-139（2017）

資　　料

元気な子どもを育む学校経営についての一考察

山田修司

（西九州大学子ども学部子ども学科）

（平成29年１月５日受理）

A Study of School Management to foster energetic children

Shuuji YAMADA

（*Department of Children's Studies*）

（Accepted January 5, 2017）

1　はじめに

筆者は，平成28年３月31日をもって38年間の中学校教師生活を終え，翌４月１日から西九州大学子ども学部で第二の教師生活を迎えることになった。最後の10年間，平成18年度からは管理職（校長）として，主題にある「元気な子どもを育む学校経営」に取り組んだ。取り組みのキーワードは，２つである。１つ目は，その学校の課題や培ってきた実績，受け継いできた伝統，地域性や地域の教育力などを踏まえたうえで，現在の教育活動の見直しや整理統廃合を行う「現有リソースの体系化」である。２つ目は，体系化した教育活動一つ一つの「質の向上」である。

昔から「教育は人なり」，すなわち教育は教師の力量である「教師力」に左右されると言われる。また，学校は「学び舎」であり，「授業」をはじめとする全教育活動をとおして，子どもと教師が成長・向上する場である。筆者も学校経営者として，「教師力」と「学校力」を高め，子どもの「生きる力（人間力）」を育むことに尽力してきた。

次世代を担う子どもたちにとって，変化の激しい社会の中で様々な未知の課題に向き合い，試行錯誤しながらも対応していく力，つまり「確かな学力」・「豊かな心」・「健やかな体」である「生きる力」は不可欠である。

学校経営という立場から，「生きる力」を身につけた「元気な子ども」を育むために，「教師力」と「学校力」をどう高めていくかについての考察を以下にまとめてみた。

2　筆者のめざす学校・子どもについて

筆者のめざす学校については，単純明快である。「子どもたちが，いってよかった○○学校」，「保護者や地域の方が，やってよかった○○学校」，「先生たちが，つとめてよかった○○学校」である。このめざす学校は，すべて「元気な子ども」から始まる。

「元気な子ども」とは，昔から変わらず「知・徳・体」，つまり「確かな学力・豊かな心・健やかな体」である「生きる力（人間力）」を，バランスよく身につけた子どもであると考える。

子どもは，「学ぶ意味や目的」がしっかりしていると，「意欲」や「向上心」がわいてくる。また，褒められたり，学習内容がわかりだしたりすると，自信がつくし，充実感や自己肯定感も高まり，よりいっそう「元気」になっていく。

教師も子どもの変容，例えば「あいさつがよくなった」，「子どもの笑顔が増えた」，「学ぶ姿勢が意欲的になってきた」，「目の色が変わってきた」など，子どもが元気になったと感じたときに，明日への活力がわいてくる。

そして，そんな子どもや教師をみて，保護者や地域の方も「○○先生のおかげ，○○学校にやってよかった」，と安心感や信頼感などをもつと考える。

「元気な子ども」は，家庭と地域の教育力を土壌として学校で育まれていく。そして，「元気な子ども」が，教師の資質・能力やモチベーション・教育愛などを最大限に高めてくれる，と考えている。

3　学校経営の実際について

⑴　プロの教師をめざす

教師一人一人の熱意や指導力などは同じであるとは限らない。授業，生徒指導，部活動指導などについて，いろいろな個性や能力に違いがある。しかし，教師は，「子どもたちのために」という熱い志をもって，難関の教員採用試験を乗り越えてきた逸材である。彼らが，本気になって子どもたちと向き合い，初心の情熱を思い出せば，「教師力」の高い，信頼される「プロの教師」になり得ると確信している。

日本の学校では，校内研修が盛んで，特に「授業研究会」については「レッスンスタディ」として，海外にも紹介されている。ただ，中学校の場合，「教科担任制」による教科間の垣根が高く，「授業研究会」に対して，やや消極的な感がある。筆者は常々「教師力」の向上をめざすには，全教科による「授業研究会」が不可欠であると考え，「教科の壁を越えた授業研究会」を合言葉に取り組んだ。

専門の教科が違っても，例えば英語の先生が音楽に，社会の先生が美術に，そして，体育の先生が理科に対して，「教材論ではなく教授論」で，また，「教科の論理ではなく教育の論理」で意見を言い合う。こうした授業研究の視点を全職員に伝え，全教科・全教師が年間一回の授業研究会を行うことにした。

その結果，「自分の授業では見られない子どもの違う面が見えて，今後の参考になる」，「他教科から調べ学習やグループ活動の在り方など，いろいろ学ぶことができた」など，さまざまな感想を聞くようになった。

⑵　全職員で課題解決に取り組む体制づくり

平成23年６月，鳥栖市で元サッカー日本代表監督岡田武史氏の「人を育てる」と題しての講演会があった。その講演の一部（概要）を紹介する。

・サッカーワールドカップ・フランス大会（1998年），41才で代表監督
　予選リーグ全敗で敗退。サッカーの理論や戦術には問題ないが，結果が出ない。「人を育てる」ことができていないと考えた。そこでありとあらゆることを勉強した。哲学・心理学・大脳生理学・経済学など，自分の限界を超えるまで取組んだ結果，「エデュコ」という言葉に辿り着いた。「エデュコ」とはラテン語で，英語の「エデュケーション＝教育」の語源とされ，「引き出す，導き出す」という意味である。それまで自分は，「育てる」とは，空のコップに水を入れることだと思っていた。「勝ちたい！」という最も基礎・基本となるものを，育てていなかった，引き出していなかったことに気づいた。
・再び代表監督，南アフリカ大会（2010年）
　「ベスト４」という「明確な目標とビジョン」を選手に繰り返し説明することで，次第に選手が勝つためにはどうすればいいかを意識するようになり，自分たちで考え，行動するようなった。「自分たちで判断し，自分たちで折り合いをつけて動くチーム」になったことが，「ベスト16」という好成績につながったと思う。

「教育」は，人と人とのかかわりあいである。よい「教育」には教師と子どものよい関係が必要不可欠であり，その大前提は校長と教師のよい関係であると考える。

日々の取り組み，また，何か判断に迷うときに，その拠り所となる明確な目標やビジョンなどが必要になるが，筆者の場合，「すべての教育活動は，子どものために」，「元気な子ども」，「いってよかった・やってよかった・つとめてよかった○○学校」に帰着する。この３つのフレーズには，筆者の理想やめざすところ，ビジョンなどのすべてが込められており，筆者自身が，悩んだり，迷ったりしたときの拠り所でもある。このフレーズをとおして，全職員の学校組織の一員としての意識を高め，個人として，また，学校組織として取り組むべき課題の把握とその解決に向けた実践に努めた。その資料が添付の「平成27年度学校経営案」と「平成27年度グランドデザイン」である。

また，その時々の問題解決に向け，全職員が一体となり，組織としての「学校力」を発揮するためには，「共通の問題意識」が不可欠である。そこで「適切な情報提供」と「明快な説明」を心がけ，全職員が「自分の問題・学校の問題」と認識し，全職員で問題解決に向かう体制づくりに取り組んだ。

⑶　ヒアリングとミーティングによる意欲喚起

①　ヒアリング

佐賀県では，平成27年度まで全職員が校長の学校経営方針に基づき，自らの具体的目標を設定する「評価・育成システム」が実施されていた。筆者は，これを活用し，職員一人一人とヒアリングを適宜行うことで，「自分が，個人として何（教科，学級経営，校務分掌，部活動等）をすべきか」，「自分が，学校組織の一員として何をすべきか」，「自分のさらに伸ばすところ，改善すべきところは何か」などを確認・自覚させることを心がけた。

このヒアリングを通して，職員一人一人の「モチベーション」を高め，「やる気」を引き出し，個人の「教師力」と組織としての「学校力」の向上に努めた。

②　ミーティング

校長の学校経営を推進するにあたって，一番頼りになる存在は同じ管理職である教頭と事務長，それに主幹教諭である。

筆者を含めた４人で毎朝15分のミーティングを行い，今日の流れと見通し，連絡や報告，問題点などを確認・共有した。このことが，「校長の意を体して動く組織」の礎と考えた。

さらに教頭・事務長，主幹教諭からミドルリーダー（指導教諭，学年主任，生徒指導主事，研究主任等）へ，ミドルリーダーから職員へと伝達・確認・共有がなされることで，「元気な子どもを育む」ために，「自分たちで考え，判断し，折り合いをつけて動くチーム・組織」として機能する学校への一歩を踏み出した。

⑷　職員への配慮

昨今，保護者や社会などの学校・教師に対する期待や要求等が高くなり，個々のレベルでは対応・解

決できないものも増加傾向にある。

職員がストレスをため込んでいたり，孤立していたりでは，力を十分発揮できないばかりか，精神的な疾患に陥ることもあり得る。そこで教頭，事務長，主幹教諭，ミドルリーダー等と連携して，日頃から「気配り・目配り・心配り」を心がけ，職員一人一人と「報告・連絡・相談・確認」のコミュニケーションを密にした。

⑸ 情報の公開・提供による学校支援体制づくり

「元気な子ども」を育み，「いってよかった・やってよかった・つとめてよかった○○学校」となるためには，家庭と地域社会の理解、支援・協力は不可欠である。そのためには，筆者の理想やめざすところ，ビジョン，学校の取り組みや様子などの情報を適宜公開・提供し，理解してもらうことが必要である。その有効な手段として，「学校だより（添付資料)」，「学校ホームページ」，「学校情報メール」がある。

特に週一回発行の「学校だより」は，校区内各戸に回覧され，フリー参観デーや学校行事などへの保護者と地域住民の参加者増につながった。また，地域での子どもに対する声かけや学校への情報提供などにも効果があり，問題行動対応等にも役立った。まさしく「継続は力なり」と，「地域の教育力」のありがたさを実感した。

地域の学校支援の一例としては，「お花かざり隊（添付資料)」の取り組みがある。地域の有志が，子どもたちの「豊かな心」を育む一助になればと，校内に花を飾ったり，花壇に花を植えたりする活動を定期的に行っている。子どもたちの日頃の言動にいい影響を与えており，まさに「環境が人をつくる」である。

4　終わりに

「組織のトップは孤独である」と言われる。学校経営者として，学校・職員の先頭に立ち，子どもたちの命を守り，「生きる力」を育み，次なるステージに送り出すまでには，様々な苦悩や葛藤などに押しつぶされそうになることも幾度となくあった。

そういう中での「決断と責任」，これこそが学校経営者，校長としての醍醐味である。「毅然として，凛として決断する」，もし何かあれば「潔く責任をとる」と覚悟し，日々努めてきた。例えるなら，大相撲の大関は降格ありだが，横綱は降格なしの引退である。校長の希望降任はあるにせよ，大相撲と同じではないか，と考えていた。

培ってきた実績や研修，知恵や工夫，修羅場での経験などを結集したダイナミックな学校経営を行うとともに，その中での「決断と責任」が，「校長の醍醐味」であり，目標達成すれば，「校長冥利に尽きる」と思われる。

以上，「元気な子どもを育む学校経営」について，筆者の稚拙な取り組みを紹介したが，やり残したことや反省すべきところも多い。そのことを踏まえ，今後も筆者自身が寸暇を惜しんで勉強しなければならないことを肝に銘じ，最高学府に学ぶ学生たちの夢実現に向け，努力していきたい。

資料

平成２７年度学校経営案

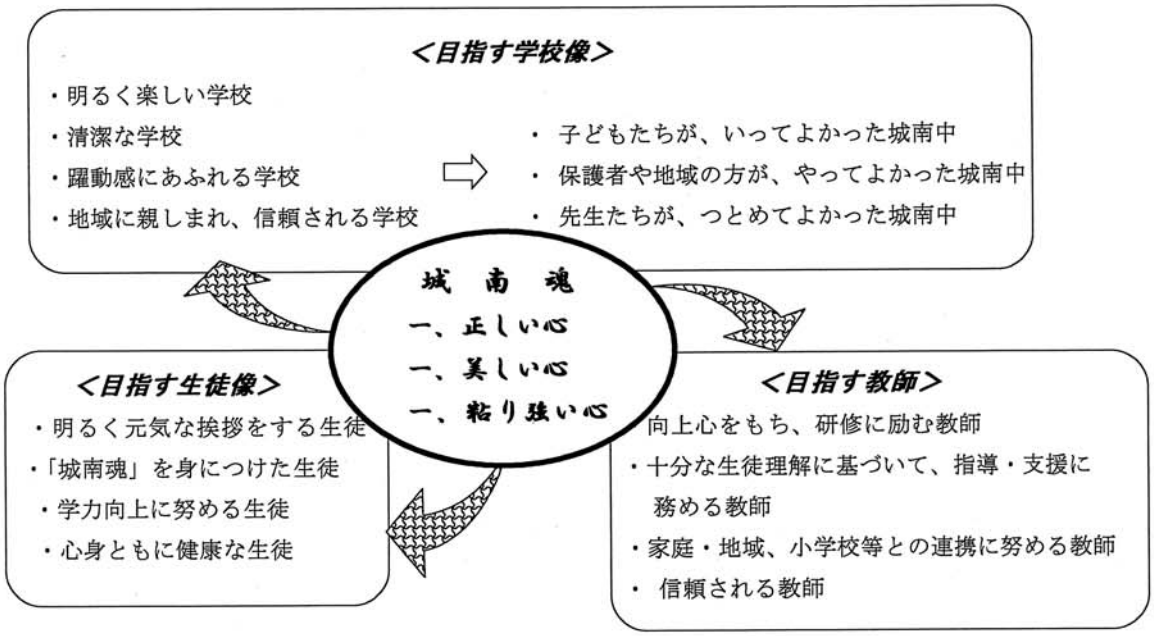
佐賀市立城南中学校
校長　　山田　修司

本校の教育目標

『城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成』
～「城南魂を身につけた元気な生徒の育成」を目指して～

城南中校区内の小学生及び保護者から「選ばれる城南中」、「いってよかった、やってよかった、つとめてよかった城南中」となるように、昭和２２年開校以来、本校のＤＮＡ遺伝子として受け継いできた「城南魂」を身につけた元気な生徒を育成する。

このような城南中の一番のポイントは、子どもたちに「確かな学力」・「豊かな心」・「健やかな体」である「生きる力」がバランスよく身につくことである。この「学力」・「体力」・「豊かな心」である「城南魂」が身につけば、「元気な城南中の生徒」となり、「いってよかった、やってよかった、つとめてよかった城南中」になると考える。



○　はじめに

本校の学校教育目標は、「城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成～城南魂を身につけた元気な生徒の育成を目指して～」であり、保護者・地域、小学校等との連携をとおして、学校教育目標の実現、学校課題の改善・解決に向けて取り組んできた。

平成２０年度から「保護者や地域住民が、合議制の機関である学校運営協議会を通じて、一定の権限と責任をもって学校運営に参画し、よりよい教育の実現を目指すという、地域に開かれ、地域に支えられた学校づくり」に向け、佐賀市教育委員会より「城南校区コミュニティー・スクール推進事業」の委嘱を受け、現在、３期目（平成２５～２７年度）の研究実践に取り組んでいるところである。

この研究実践により、家庭・地域連携、小中連携等がよりいっそう強まり、本校課題である「学力向上」や「不登校未然防止」等につながるものと考えている。

そこで、本校がこれまで築き上げてきた教育資源・財産の見直し・整理統廃合を行い、さらに

高めていくという「現有リソースの体系化と利活用」、教育活動の「質の向上」、この二つを教育活動の基盤にすえ、本校教育目標実現に向け、全職員一丸となって、教育実践に取り組む所存である。

1．学校経営の基本方針

(1)　魅力ある学校づくり（選ばれる城南中）

全職員一丸となって、「城南魂」（正しい心：正々堂々臆することなく、美しい心：一生懸命本気で取り組む姿は美しい、粘り強い心：最後まであきらめない）を育み、教職員・生徒・保護者・地域からなる「チーム城南」で、「子どもたちがいってよかった、保護者や地域の方がやってよかった、先生たちがつとめてよかった城南中」づくりを推進する。

(2)　家庭・地域連携、小中連携等の深化充実（城南豊夢学園づくり）

家庭・地域への情報提供・公開により、「課題意識の共有化」を図るとともに、小学校と連携して、地域とともに歩むコミュニティー・スクール「城南豊夢学園」づくりを推進する。

(3)　教職員の資質・能力の向上（教育は人なり）

学習・生徒指導、学級経営、部活動指導、校務分掌等におけるマネジメント意識を高め、目標達成に向け、ＰＤＣＡサイクルによる実践に取り組み、質の高い教職員集団づくりを推進する。

2．学校経営の重点取組

(1)　学力向上の取組

①　学力向上の方策

文部科学省や県の学力・学習状況調査をはじめ、校内での各種テスト結果や授業評価等をもとに、生徒の学習定着状況の把握と分析を行い、課題解決の方策を立て、確実に実践していく。また、教科部会と連動して、生徒の生活や学習の実態等に応じた指導体制を構築する。

②　校内研修の充実

学力向上を目指し、全教員による年１回の公開授業やＩＣＴを利活用した授業の実践を通して、指導方法の工夫・改善に取り組み、個々の指導力向上を図る。これまでに作成した、各教科の「シラバス」（学習指導計画）を有効に活用し、生徒の主体的な学習態度を育成する。

③　学級づくりの強化

生徒一人一人がお互いを尊重し、高めあう学級集団の中で、ともに学びあう授業である「城南学びのスタイル（学び合い）」の確立を目指す。

(2)　「城南魂」の育成

①「道徳の時間」の授業の充実

②「心の教育」の充実

１年生「命を大切に考える」、２年生「相手を思いやり命を大切にする」、３年生「生と死を考える」として発達段階に応じた性教育、また、３年生での福祉体験及び施設訪問などを通して、「心の教育」を推進する。

③　ボランティア活動の推進

「福祉体験」や「ボランティア活動」などを地域と連携して実践し、多くの人とのふれあいをとおして、「思いやり」や「感謝」など、人と人、人と地域との絆を育てる。

④　読書活動等の推進

各学級での朝読書やボランティアによる読み語り活動、メディアトリウムを活用した全校読み語りなどにより、「豊かな感性」を育てる。

(3)　健やかな体の育成

家庭での「早寝、早起き、朝ご飯」による規則正しい生活習慣づくり、保健体育の授業や城南中「健康・体づくり推進プラン」、自己管理機能を高める保健・健康、安全教育や適切な部活動などをとおして、心身ともに健康な生徒を育成する。

(4)　生徒指導の充実

①　生徒指導体制の構築

日々の生徒理解に努め、問題行動については、報告・連絡・相談・確認を確実に行い、早期発見、早期解決を図る。

②　時間厳守の指導

基本的な生活習慣の定着を図るために、生徒会とともに毎朝８時０５分校門通過の指導を徹底し、「遅刻０」を目指す。

③　明るく元気な挨拶やきちんとした身なりの指導

生徒会とともに、朝のあいさつ運動を行い、明るく元気のよい挨拶で一日をスタートさせるようにする。

④　掃除指導の徹底

１０分間の掃除の時間の開始を厳守させ、愛校精神をもって校内を無言できれいにするように、師弟同業で指導する。

⑤　教育相談体制の充実

不登校対策として教育相談室を設け、生徒の居場所を確保しながら、共感的で温かい人間関係をつくり、学級集団に入っていくことができるように支援する。

(5)　特色のある学校づくり

①　コミュニティー・スクールの取り組み

・学校運営協議会の推進

平成２５年４月１日「城南校区コミュニティー・スクール推進事業（３年間)」の研究指定を受け、これまでの取り組みをさらに充実させ、地域のニーズを適切に捉えながら、地域の期待に応える学校づくりを目指すとともに、地域と協働して学校教育目標の達成を図る。

・家庭・地域と連携したさまざまな体験活動の実践

生徒が、地域での行事にボランティアとして主体的に参加し、地域で認められ、地域の大人との交流の中で、人と人、人と地域の絆を育む。

・学校の情報提供・公開

学校教育活動、ＰＴＡ活動、地域での活動などの情報を、学校通信「城南だより」や学校情報携帯メール等を活用して、提供・公開し、学校への理解と支援を進める。

・小中連携による９年間を見通した教育の基盤づくり

授業参観や授業交流（出前授業）を通して、相互理解を深め、生徒指導や学習指導に活かす。

②　キャリア教育の充実

平成２７年度で１１回目の取り組みとなる３日間連続の職場体験学習を実施する。２年生で夏季休業中に、「総合的な学習の時間」として実施する。事前学習としてのビジネスマナー講習や「働くこと」についての企業人の講話などをとおして、体験学習を充実させる。社会の変化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できるなど、社会人・職業人として自立していくことができるようにする。

１年生では、職業学習として「働く人に学ぶ」、２年生で進路学習として「先輩に学ぶ」、３年生では、他者とのかかわりの学びとして「福祉体験」等、「総合的な学習の時間」の中で３年間を見通した、キャリア教育を推進する。

平成２７年度　佐賀市立城南中学校グランドデザイン

「いってよかった　やってよかった　つとめてよかった　城南中」

学校経営の基本方針

① *魅力ある学校づくり*
＜選ばれる城南中＞
・「城南魂」を育み、教職員や生徒・保護者・地域からなる「チーム城南」で学校づくりを行う

② *家庭・地域連携、小中連携等の深化充実*
＜城南豊夢学園づくり＞
・家庭・地域への情報提供・公開による「課題意識共有」

③ *教職員の資質・能力の向上*
＜教育は人なり＞
・マネジメント意識向上
・ＰＤＣＡサイクルの実践
・質の高い教職員集団づくり

城　南　魂

１　正しい心
２　美しい心
３　粘り強い心

学校教育目標

城南中学校生徒としての誇りをもち、たくましく生きる生徒の育成
～　「城南魂を身につけた元気な生徒の育成」を目指して　～

学校経営のビジョン

目指す学校像

・明るく楽しい学校
・清潔な学校
・躍動感にあふれる学校
・地域に親しまれ、信頼される学校

目指す生徒像

・明るく元気なあいさつをする生徒
・「城南魂」を身につけた生徒
・学力向上に努める生徒
・心身ともに健康な生徒

目指す教師像

・向上心をもち、研修に励む教師
・十分な生徒理解に基づいて、指導・支援に努める教師
・家庭・地域、小学校等との連携に務める教師
・信頼される教師

コミュニティ・スクール

◎ 外部委員９名

① 学校や生徒への支援の充実
② ＰＴＡとＣＳとの連絡・調整
③ 豊夢学園の組織確立、小中連携の推進
④ 学校ボランティアの運用体制づくり
⑤ 広報活動の活性化と地域、各機関への周知

学　校　の　状　況

○・生徒は明るく素直
　・何事も真面目に取り組む
　・ボランティア意識は高い
　・保護者、地域の協力あり
　・あいさつがよくできる
　・部活動に熱心に参加

△・家庭学習の未定着
　・不登校生徒の割合５％

本　年　度　の　重　点　目　標　・　重　点　事　項　・　重　点　取　組

学力向上の取組

① 学力向上の方策
② 校内研修の充実
③ 学級づくりの強化

○ 現状把握と各種テストの分析を教科指導に生かす
○ 家庭学習の定着
○ 生徒の実態に応じた指導体制の構築

「城南魂」の育成

① 「道徳の時間」の授業の充実
② 「心の教育」の充実
③ ボランティア活動の推進
④ 読書活動等の推進

○ 「ふれあい道徳」の実施
○ １年：命を大切に考える
　２年：相手を思いやり命を大切にする
　３年：生と死を考える
○ 発達段階に応じた「性教育」および「心の教育」

健やかな体の育成

① 規則正しい生活習慣づくり

○ 「健康・体づくり推進プラン
○ 自己管理機能を高める保健・健康、安全教育
○ 適切な部活動

生徒指導の充実

① 生徒指導体制の構築
② 時間厳守の指導
③ 明るく元気なあいさつやきちんとした身なりの指導
④ 掃除指導の徹底
⑤ 教育相談体制の充実

○ 日々の生徒理解
○ 登校指導の徹底（生徒会と）
○ 朝のあいさつ運動
○ 愛校精神と無言清掃
○ 居場所づくりと共感的人間関係づくり

特色ある学校づくり

① コミュニティー・スクールの取組
② キャリア教育の充実

○ 学校運営協議会の推進
○ 家庭・地域と連携したさまざまな体験活動の実践
○ 学校情報提供・公開
○ 小中連携による９年間を見通した教育の基盤づくり
○ 一貫性のあるキャリア教育

城南だより

第１９号（平成２７年９月１７日）
文責　校長　山田修司

・城南魂（正しい心・美しい心・粘り強い心）を身につけた元気な生徒
・いってよかった・やってよかった・つとめてよかった城南中学校

◎平成２７年度９月全校朝会挨拶（平成２７年９月９日(水)）

○　先日の始業式で、「二学期、季節は秋。スポーツの秋、芸術の秋、勉強の秋、食欲の秋等、一年で一番過ごしやすく、何事も集中し、深めることができる。」と話しました。

○　今朝は始めに、**先ほどの秋の中の「食」について、私の頭にすぐ浮かぶ「四字熟語・故事・ことわざ」をいくつか紹介します。**

まずは、**「無芸大食」**です。これは「大食い」する他には、何の取り柄もないという意味で、人を嘲ったり、自分を謙遜したりする場合に使います。例えば、「いいお子さんですね。いえいえうちの子どもなんて、何の取り柄もない典型的な無芸大食ですよ。」などです。次は、**「同じ釜の飯を食う」**です。これは同じところで苦楽をともにした親しい間柄という意味で、まさしく「チーム城南」の先生方や生徒の皆さんのことです。最後は、**「衣食足りて礼節を知る」**です。**人は寒い思いやひもじい思いなどをしないような生活ができてこそ、礼儀正しさや節度ある行動できる、つまり城南魂にある「正しい心が育つ」という意味です。実は「学力」についても同じことがいえる、と私は思っています。**

○　**我が国では毎年４月に全国学力・学習状況調査が、小学６年生と中学３年生に実施されています。この調査の目的は、子どもたち一人一人の学習の理解度や定着度などを確認し、そこからみえてきた課題を、授業や家庭学習などをとおして改善することです。**ただ、学校や市町村、都道府県単位の集団での平均なども出てくるので、毎年、○○県は４７都道府県で□位、県内○○市町村で□市は△位などが注目され、何かと話題になっています。

今年も**８月２５日にその結果が公表され、新聞によると「佐賀県の小学校はいく分改善されたが、中学校は依然として厳しい状況にある。」とのことでした。**

○　さて、この調査で、昨年・今年と注目されている県があります。それは「沖縄県」です。それまで「沖縄県」は佐賀県以上に厳しい状況にあったのですが、小学校については、２年続けて、かなりの改善・向上をしているからです。地元の新聞には、「沖縄の奇跡」と書かれているそうです。その**改善・向上の理由**については、いくつか言われているそうですが、**私が注目しているのは、「朝ご飯・朝食」のことです。**

調査結果の不振・低迷が続いていたある学校では、朝食を食べずに登校する子どもが多かったそうです。そこで、**朝７時までに必ず朝食を食べてから登校することに、学校・児童生徒会・ＰＴＡあげて取り組んだ結果、１００％を達成し、さらには調査結果も著しく改善・向上したそうです。**

私は、朝食を食べるだけでは、先ほどの「無芸大食」で終わってしまう、しかし、**朝食を７時までに食べるために、①早起きをする②早く寝る（睡眠時間の確保）③ＴＶやゲーム等を制限し家庭学習（宿題や予習復習）を集中して早くすませ、床につく④家庭学習がスムーズにいくように授業を真剣に受ける等々、「生活習慣・リズム」が改善され、学習に対する取り組みも変わり、学力向上へとつながっていったと考えています。**

○　現在、本校でも先生方が調査結果を分析し、授業をどうしていくか、生徒会・ＰＴＡの対応はどうするかなどを検討中で、その結果については全体の場や学校だより・ＨＰ等をとおして、皆さんに説明し、取り組んでもらいます。**「食欲の秋」と「勉強の秋」、この二つの関係を理解し、「生活習慣・リズムの改善」を図り、生徒の皆さん一人一人と「チーム城南」としての「学力向上」を達成してほしいと思います。**終わります。

「お花かざり隊」通信

お花かざり隊の新郷さんが発行されている通信です。

（前号で紹介した８月３０日の活動が記載されています）

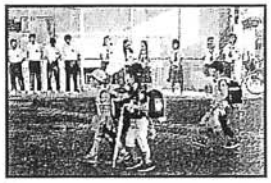
出前あいさつ運動（9/7･10）

今学期も両小学校へ生徒会本部役員が出向いて、あいさつ運動を行いました。小学生の元気いっぱいの声に圧倒てしまいそうな様子でした。

「立ち止まってあいさつをする」、「相手の目を見てあいさつをする」など、小学生もしっかり取り組んでいることに驚きます。城南中学生も地域の方から「あいさつ」で褒めていただいたことを前号で紹介いたしました。城南中学校区（豊夢学園）として、子どもたちが成長していることが分かります。

今後も、「人として大切なこと」を小中連携して育んでいきたいと思います。保護者の方も校種を問わず、「豊夢学園の子ども」として見守りください。

豊夢学園は、あいさつ運動に取り組んでいます。



1年生ＰＴＡ学年行事

９月７日（月）、「親子ふれあいドッジビー」大会がありました。城南校区スポーツ推進員、佐賀市役所スポーツ振興課の方から、ルールの説明や審判をしていただきました。保護者の参加もあり、ハプニングや笑いの中で親睦を深めました。

９月の学習内容（学校行事やクラスにより多少前後することがあります）

	１年生	２年生	３年生
国語	○古典　伊曽保物語　竹取物語	○古典　枕草子　徒然草	○古典　万葉・古今・新古今
社会	○地理　世界の諸地域 （アメリカ、ヨーロッパ）	○地理　日本の諸地域	○公民　私たちの民主政治
数学	○方程式	○一次関数	○二次関数
理科	○物質の変化状態	○生命を維持するはたらき	○自然界のつり合い
英語	○名詞の複数形 ○Ｈｏｗ　ｍａｎｙ　？ ○Ｌｅｔ’ｓ	○既定事項の総復習	○Would you like ...？ ○現在完了形の復習
音楽	○合唱（コンクールへ向けて）	○合唱（コンクールへ向けて）	○合唱（コンクールへ向けて）
美術	○スケッチの絵の仕上げ	○スケッチの絵の仕上げ	○スケッチの絵の仕上げ
保体	○水泳	○水泳	○水泳
技術	○ものづくり		○情報
家庭		○肉と魚の学習	○環境の学習

※　９月に入り、急に秋めいて季候がよくなりました。各学級でも授業に集中しやすい環境になっています。**１０月１日（木）から中間テストが始まります。**それぞれの目標に応じた学習の取り組みを期待しています。上記の表を参考にされ、家庭での話題にされてはいかがでしょうか。学習も運動も、家族の応援や励ましが力になります。（悩みを聞くことで、子どもの安心感が高まります）

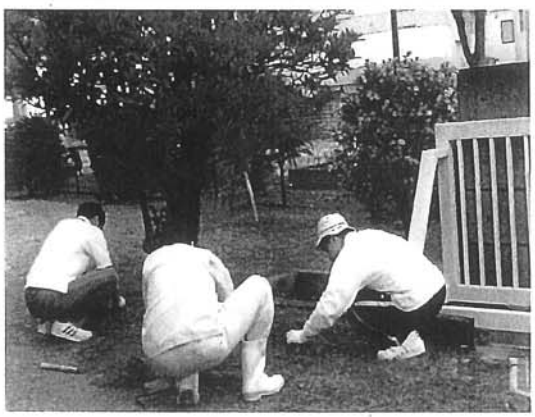
お花かざり隊通信

城南中学校

2015年（H27年）9月8日（火）
通信 VOI、12
新郷 典子

～花と緑あふれる、ほっとハートな学校に～

力を合わせ
草とりに汗を流しました



城南通り花だんは、ジニア
リナアリズが美しく咲いていました

草とりあとの
さわやかな笑顔

8月30日(日)朝7時30分より、城南通り花だん・正門
周辺の草とりをしました。先生、PTA本部・父親委員
お花かざり隊合わせて15名の参加がありました。
早朝 りのご協力ありがとうございました。